

平成22年度 泉苑 事業計画概要

前年の概況
<p>1 組織・運営 管理体制は施設長、センター長共に交代、居宅と通所の職員配置は変則的な状態でのスタートとなったが、6月以降は体制も整い組織を意識した事業運営の一步を踏み出した。また、安定運営を目指しサービスの利用促進や加算取得にも努めた。</p> <p>2 職員確保・育成 年間を通し先を見越した職員確保に注力した。人材育成は法人本部研修の他に、施設研修は各研究会、専門職員チームで基礎研修を企画・実施。より実践的な研修内容となり、併せて自己研鑽の機会とした。</p> <p>3 サービス向上 ・わいわい倶楽部・小規模行事等できめ細かな生活の楽しみや職員とのふれあいの機会とした。家族懇談会や担当からの手紙などでご家族との関係づくりに努めた。 ・情報公表・第三者評価(ホーム・センター・居宅)受審、サービス自己評価と合わせ、業務の再確認と次年度の課題を整理した。</p> <p>4 リスク管理 職員の徹底した衛生指導や意識の向上で、感染症は防止できた。一方、大事故にはならなかったものの重度化・認知症高齢者の増加により、転倒、ずり落ち、徘徊、誤嚥、配薬ミスなど生活上のリスクは多く発生し、新たな課題となった。</p> <p>5 建物管理 念願の建物診断・耐震診断が実現。予定していた新調理方式導入のための厨房工事と併せ緊急工事を実施した。次年度の大規模修繕、耐震化工事の準備も始まり、利用者、職員の安全と労働環境の整備がスタートした。</p> <p>6 地域 支援センターは家族の介護力低下や地域及び家族崩壊を背景とする困難なケースに直面、適切、適宜の相談および直接支援で対応した。また、必要に応じて泉苑全体でバックアップした。</p> <p>7 その他 勤怠管理は健康の維持、私生活の健全化等の意識啓蒙により業務の計画的な遂行意識は高まったが、業務の煩雑化、利用者の重度化による繁忙は解決せず超過勤務の解消は進まなかった。海外研修には韓国1名・スウェーデン1名が参加し、同じく受け入れも行って、職員は北欧の福祉の情報を得る機会となった。</p>
課題
<p>1 超高齢化、少子化、家族状況の変化等の社会状況を受け止め、「生きること、老いること」を真摯に追求する機会をもち、それを支える社会福祉法人の役割を考える</p> <p>2 利用者視点での介護・生活支援の提供を目指し、制度と利用者の重度化・超高齢化・認知症高齢者の増大でますます繁忙化する業務及び職員体制を見直す</p> <p>3 個別ケアの充実、法令・諸規程、ケアプラン・指針に基づいたサービス提供を目標に、家族支援システムを円滑稼働させ作業の効率化を図る</p> <p>4 中途採用者、短時間非常勤職員等へのスキルアップ、育成のシステムを事業推進と連携して整備する</p> <p>5 次世代を意識した組織及び責任体制整備とOJTによって人材を育成する 自らの役割の理解と自覚的な業務への取り組み・個人および専門集団としてのチーム力向上 さらなるマナーの向上・計画的、効果的な研修の実施・資格取得の促進および所有資格の活用場の提供</p> <p>6 大規模改修、耐震化工事の安全な執行、安全対策の促進、防災訓練の計画的に実施する</p> <p>7 部署単位の予算管理の徹底および無駄の排除、費用対効果を考慮した計画と執行、利用者負担や職員負担とのバランスを考慮した収入確保、購入物品等の確実な検収と適正管理に努める</p> <p>8 増大する社会問題ケースに対し、制度の柔軟な活用と地域拠点として即応性のある対応のための地域包括支援センターの役割遂行と泉苑全事業、法人施設との連携を強化する</p>

重点ポイント
<p>1 組織・運営 事業ごとの責任体制および職員個々の業務を明確にし、施設の総合力を高め、地域の高齢者サービスの拠点の役割を果たす。家族支援システムの稼働推進に取組み、法令遵守体制及び記録の充実、負担軽減を図る</p> <p>2 職員確保・育成 働きやすい労働環境の整備と職員関係の構築、OJTによる職員相互育成、法人推進事業との連携で実施する施設内研修を充実し、職員のスキルアップを図る</p> <p>3 サービス向上 法人理念、指針を職員一人ひとりが意識し、利用者の意向や希望を尊重した個別ケア、残存能力を尊重した自立支援、安全で穏やかな生活環境の提供、緊急事態への適切な対応、ターミナルの過ごし方などを模索、実践する</p> <p>4 リスク管理 感染症については、従来の蓄積してきた防止策、対応策を徹底し、特に新人職員の啓蒙、啓発に取り組む。職員の不注意による配薬ミスの防止に努めると共に、転倒等の生活リスクはご家族とも充分話し合い、どのような生活を望まれるかによって方針を明確にし対応する</p> <p>5 建物管理 居ながら工事が予定される大規模修繕、耐震化工事については、事故無く安全に行われるよう準備する。また、完了後の保守メンテナンス体制を整備する</p> <p>6 地域 地域包括支援センターの基本業務の確実な遂行に努めると共に、地域の安全ネットワークの要としての役割を果たしていく</p> <p>7 防災・防犯対策を強化する 日頃の訓練を通し、いざという時の動きを身につける</p>
全体を通した考え方
<p>日々の業務では、法人の理念・指針をベースに事業を推進し、地域福祉の拠点として相談から在宅サービス利用、施設入所までを継続的に支援する 職員はチャレンジプランで自らの目標を設定、OJTの相互育成や研修等でその達成を目指す また、介護保険制度導入10年の節目の年を迎え、改めて老人福祉法の意義、社会福祉法人の果たす役割に立ち返り、職員、利用者、家族、地域、行政など内外にも発信しつつ、制度改善や見直しに取り組む</p> <p>地域包括支援センターは基本業務の遂行に加え、地域の高齢者の安心ネットワークの窓口となり、「老人福祉法の在宅介護支援センター」の役割を果たす。また、泉苑全事業はそれをバックアップする</p> <p>特別養護老人ホームは、利用者の終の住まいであり、介護と生活支援を併せもった生活の場として、最後までその人らしく、安全安心かつ生活の彩のある暮らしの場を提供する</p> <p>高齢者サービスセンターは介護者と連携し、在宅の生活を支える。また、事業の中での気づきをケアマネジャーにフィードバックしその方よりよい暮らしを支援する</p> <p>居宅、食事、看護・機能訓練は、それぞれの専門性を持って他職種・各事業と連携し、利用者の生活全般、食の楽しみ・栄養・健康管理及び適切な病気への対応、人としての機能維持などによって、人生の終末期の豊かな過ごし方を支える</p> <p>事務は法人事務局と連携し、泉苑各事業の円滑な業務推進をバックアップする</p>

		対利用者	職員・業務
運営・管理	事務局担当	<p>1 本部と施設との橋渡しとしての役割を担い、施設サービス部門との連携を図る</p> <p>2 本部集約を通じ、国保連・利用者の未収金管理を徹底する</p> <p>3 法令を遵守し、適切な介護保険請求を行う</p> <p>4 来客者・利用者に対し、気持ちの良い対応を心掛ける</p>	<p>1 事務局本部との連絡・報告・相談を密にした連携を図る</p> <p>2 財務三表等から経営状況を把握する力をつける</p> <p>3 法令を遵守し適正な勤怠管理を行う</p> <p>4 書類整理方法を見直し文書管理を確立させる</p> <p>5 チーム内での業務の省力化を行う</p>
	サービス向上	<p>1 大規模改修、耐震補強工事の実施にあたっては、利用者の安全と居住性を第一に考え、プロジェクトを立ち上げて十分な準備と実施につなげる</p> <p>2 苦情、要望やその対応については家族、利用者、職員への周知に工夫し、サービスの質に反映するよう取り組む</p> <p>3 防災、安全、感染症、事故防止等、利用者・職員へのリスク管理に注力する</p>	<p>1 新任、中途採用職員などの研修体制を確立し、職員の質の向上に取組む</p> <p>2 ゴミ有料化を機会に一層ゴミ減量への取組みを推進していく</p> <p>3 職員の業務を点検し、ライフワークバランスの視点をもって、適正な超過勤務等の勤怠管理を行う</p>
支援センター	地域包括	<p>1 第5地区の地域包括支援センターとして、地域高齢者の適切な支援にあたる。実態把握、見守り訪問により、問題の早期発見、支援に努める。介護支援専門員と連携をとり、支援困難ケースの対応にあたる</p> <p>2 高齢者が暮らしやすい地域づくりを目指し地域住民とともにネットワークづくりに取り組む。(認知症高齢者見守りネットワーク・要援護高齢者対策等)</p> <p>3 適切な介護予防プランを作成する</p> <p>4 介護予防普及啓発の強化および特定高齢者の実態把握に努める</p>	<p>1 関係機関との連携(市包括支援センター・社協・医療機関等)</p> <p>2 チーム内の情報共有、相談員としてのスキルアップ</p> <p>3 虐待防止・権利擁護の知識を深める</p>
	居宅	<p>1 介護支援専門員のスキルアップでケアマネジメント力を向上し、事業所の信用を高め地域貢献につなげる</p>	<p>1 事業管理体制を保持し、法令遵守をはかる</p> <p>2 包括支援センターと連携を強化する</p>
センター	通所(デイ)	<p>1 改修工事において安全なサービス提供に留意し、利用者環境の整備を行う</p> <p>2 通所介護と認知症対応型通所介護の特性にあわせ、合同又は固有のプログラムや活動場所について検討する</p> <p>3 満足度の高いサービス提供の為に関連部署、居宅事業所との連携を密にする</p>	<p>1 法令を遵守し通所介護計画書、モニタリング等一連の流れを確実に実行し、基本となる契約書、重要事項説明書の内容を理解するとともに、個々のプランを把握し、具体的なサービスの提供に努める</p> <p>2 関連部署との連携を密にし、安定した稼働率の確保に努める</p> <p>3 介護福祉士資格取得を計画的に取り組む</p>
	通所外	<p>(介護予防推進事業)</p> <p>1 介護予防コーディネータと協同し、リスク者の教室参加を展開する(新規にうつ予防を追加) (ほっとサロン) 1 かつ、引きこもり予防の活動(居場所づくり)を展開する (共通) 1 支援センターと連携し、予防から介護給付へのスムーズな移行を行う</p>	<p>(介護予防)</p> <p>1 介護予防コーディネータと協同し、教室への誘いかけを行う</p> <p>2 府中市の施策に基づいた各種教室を計画し運営する</p>
ホーム	ホーム	<p>1 円滑な入退所(稼働率の安定・泉苑らしい看取りケア)を推進する</p> <p>2 利用者のニーズに即したケアプランを作成し、共通認識によるケアを提供する</p> <p>3 わいわい倶楽部(逆デイ)やわいわい倶楽部(居場所)、サークル等の余暇活動について利用者像に即した実施方法・活動内容を模索していくと共に、日常の過ごし方についても検討、充実を図る</p> <p>4 日常生活訓練を意識したケアに取り組む</p>	<p>1 研究会やフロア会議等の内容についての再構築(職員間のコミュニケーション・共通の目的意識、情報共有・OJT)する</p> <p>2 個別ケアに即した業務の流れ全般の見直しを行う</p> <p>3 相談員・介護支援専門員・介護職それぞれの役割や視点を再確認し、関係他職種と連携しサービスの質の向上を目指す</p>
	ショート	<p>1 利用者、家族のニーズを受けとめ、出来る限り柔軟な対応に努める</p> <p>2 利用者受け入れのシステムを検討する</p> <p>3 利用中の日中の時間帯が、個々の状態を配慮しつつ活力ある時間となるように過ごし方を検討する</p>	<p>1 適切な入退所人数、入所時間の調整を図る</p> <p>2 空床ベッドの効率的な活用に取り組む</p> <p>3 空床ベッド案内FAXの送信、ショート見学日を設け、新規利用者の増加を目指す</p>
連携	看護	<p>[看護]</p> <p>1 健康管理・維持管理を行う。重度化に伴い服薬の管理を充実していく</p> <p>2 緊急時および看取りケアの充実を図る</p> <p>3 感染症の予防と適切な対策を行う</p>	<p>1 定期健康診断の実施と日常の観察。服薬マニュアルを整備する</p> <p>2 看取りに関する承諾書を整備する</p> <p>3 感染症マニュアル周知、研修や掲示等で啓蒙に努める</p> <p>4 施設の看護師としてのマナーを徹底する</p>
	食事	<p>[訓練]</p> <p>1 利用者の個々の生活を踏まえた、計画的かつ柔軟な訓練メニューを提供する</p> <p>1 利用者の状態に合わせた、安全で美味しく安心して食べやすい食事を提供する</p> <p>2 基本となる食事形態を見直し、季節を大切に五感で楽しむ食事提供に努める</p> <p>3 利用者の栄養・健康管理。(他部署の協力を得ながら、個人に必要な食事提供とする)</p> <p>4 食事全般の質の安定を図る。(部署内会議とチーム制を活用し繋げる)</p>	<p>1 個別機能訓練実施計画書を計画的に作成する</p> <p>2 他職種との連携(情報の共有)を強化する</p> <p>1 新調理システムの習得と確立を目指す</p> <p>2 人材育成に努める</p> <p>3 衛生管理と防災管理を見直し、徹底する</p>